

特定非営利活動法人

## おかやま人権研究センター・ニュース

発行 センター事務局 2009. 12. 10 第4号



## 秋の人権散歩 新見荘を訪ねる

## 新見荘

美しく色づいた高梁川を遡上すると、やがて新見の街に着く。インターチェンジの出口辺りで、竹本さんが、私たちの到着を待ち受けてくださった。竹本さんの案内は、すぐ開始され、ものの数分もすると

最初の見学場所だった。

そこは、上の写真に写されている地頭政所であった。後から考えてみると、その地点こそ今回の人権散歩のいわば最大のハイライトだった。

広い敷地（現在は耕地）の外周に巡らされた石垣、堀（らしき水田）の跡が、目の前に広がっている。

次いで案内されたのが、山間部のある谷筋の入り口である。「この谷のおくに、たたら採掘場所がありました」と竹本さん。

新見の荘の名前が今日にまで喧伝されるゆえんは、実にこの地が日本有数のたたら産地であり、この地域の実権を握る上で、たたら採掘を抑えることは絶対条件だった、とハわれる。

賤民・浮浪民を吸収する点に新見の荘の特徴があるとすれば、それも実にこのたたら生産に由来するといえるだろう。農業と違って、たたら生産はその搬出や交易を巡って、多数の非農業者の存在を必須とするからだ。

含みの多い竹本さんの解説には、見学者一同やや理解に苦しむ箇所もあったけれども、多年の実地研究の上に組み立てられた含蓄多い竹本さんの説明に、私たちは思いがけない見聞の広がりを経験した。

## 岡山県最古の高梁教会

午後は高梁教会に行く。雨も幸い小降りとなる。城下町特有の狭い道を縫うように走り、ようやく教会にたどり着く。事前の連絡で、牧師さんからは、留守にしているが自由に入って見学してもいいとのこと。誠におおらかである。この建物、岡山教会が空襲で焼かれたため、岡山県最古の教会である。

(次ページへ)